



# 大船渡水産振興センター「復興板」

令和元年9月3日発行 第18号

## 1 漁港関係施設の災害復旧工事 進捗状況

令和元年7月31日現在の管内県営漁港関係施設災害復旧工事の進捗率は、80%となっています。  
(令和元年7月31日現在)

	災害査定 (R1再調査決定額)		発注		進捗状況		完成
	件数	本工事費 (千円)	件数	発注額 (千円)	出来高 (千円)	率 (%)	件数
漁港	242	33,037,441	240	32,552,576	32,480,058	98	229
漁港海岸	11	33,784,333	11	27,207,326	23,408,866	69	3
漁場	2	498,880	2	498,880	498,880	100	2
合計	255	67,320,654	253	60,258,782	56,387,804	84	234

### ・ さっちゃんNEWS part 1

#### <大船渡市魚市場でサンマが今季初水揚げ>

8月28日に大船渡市魚市場でサンマが今季初水揚げされました。生サンマの水揚量は22トン、金額は1千8百万円で、1kgあたりの単価は平均819円で昨年の初水揚げ比べると190円ほど下回っています。

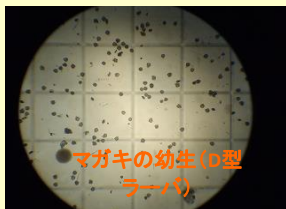
水産庁が発表した今季のサンマ長期漁海況予報によると、昨年と比べ来遊量が低く、特に9月中旬までは低く推移し、9月下旬以降は増加すると予測されています。

大船渡管内の水揚げは、例年12月中旬ごろまで続きますが、不漁の予測がはずれて大漁となることを期待します。



#### <マガキ天然採苗試験について>

大船渡市末崎町門之浜地区や赤崎町清水地区の各養殖組合では、マガキの天然採苗試験に取り組んでいます。マガキ種苗を十分確保するためには採苗器を適期に海中に投入する必要があり、その時期を把握するために①幼生(ラーバ)調査、②付着稚貝調査を実施しています。また、付着数の調整効果を調べるために干出による抑制試験にも取り組んでいます。



マガキの幼生(の型ラーバ)



採苗器に付着したマガキ稚貝



干出による抑制試験



#### ★★★\_スマイル130 (いちさんまる) プロジェクトについて\_★★★

「130万人誰もが笑顔に」をスローガンに掲げ、「県民の笑顔のために」、「感謝の笑顔を(県外、世界に)届ける」を活動のコンセプトとし、復興に取り組む職員の気持ちを盛り上げ、復興に向けた県民と一体感のある取組を展開し、岩手のあるべき未来に追いつく復興を推進する取組みです。

## 2 水産施設等の復旧・魚市場の水揚げ状況

### (1) 共同利用施設等の復旧状況

漁協や各漁業者、水産加工業者などが共同で利用する施設の整備を支援しています。  
令和2年度に巻揚機1件の整備が予定されています。

### (2) 大船渡市魚市場の水揚げ状況（平成31年1月1日から令和元年7月末累計）

令和元年		平成30年		震災前 (H20~H22の平均)		前年比 (H30/H29)		震災前(H20~ H22の平均)との 対比	
数量(ト)	金額(千円)	数量(ト)	金額(千円)	数量(ト)	金額(千円)	数量(%)	金額(%)	数量(%)	金額(%)
14,914	1,357,340	15,235	1,848,676	16,050	1,674,760	98	73	93	81

出典：いわて大漁ナビ

平成31年1月から令和元年7月までの大船渡市魚市場の水揚げ量は14,914トンで、昨年同程度、震災前の約7割でした。主な水揚げ魚種は、イサダ(5,590トン、2億8千万円)、サバ類(4,775トン、3億4千9百万円)、マイワシ(2,686トン、1億3千3百万円)などでした。なお、7月は定置網などによるサバ類の漁獲は326トンで、昨年(181トン)よりは多いものの震災前(8,899トン)と比べて少なくなっています。

## ・ さっちゃんNEWS part2

### <いわて水産アカデミー研修生「齋藤桂治さん」の紹介>

今年4月から開講した「いわて水産アカデミー」の研修生の齋藤桂治さんを紹介します。齋藤さんは一関市の通信機器メーカーで20年以上勤務していましたが、大船渡市で開催された浜の魅力体験講座（漁業体験）に参加したことをきっかけに、本気で漁業に就くことを考えたそうです。現在は、いわて水産アカデミーで定期的に座学研修を受けながら三陸町越喜来崎浜で山崎道数さん・太樹さん親子の指導のもと、鬼間ヶ崎定置網で研修中です。研修を見学した8月10日は3日分の漁とあってワラサ5tの大漁で、魚槽に移し終えるまでに約1時間かかりました。危険を伴う仕事なので作業中の齋藤さんの顔つきは真剣でしたが、魚槽に移し終えた後や陸揚げした後の表情には達成感を滲ませてました。齋藤さんは「鬼間ヶ崎定置網ではベテランの乗組員が多く丁寧に指導していただき少しずつ漁業に慣れてきました。この定置網で学ぶことができ関係者の皆様に感謝しています」、また「トラブルがあった時の対処が身につけていないので経験を積み重ねなければならぬ」と話していました。この言葉からも漁業で生きていく覚悟を感じました。研修も中盤を迎え残り約半年間となりましたが、怪我なく研修を修了し、岩手の漁業担い手の一人として末長い活躍を期待しています。



網を手繰る齋藤さん



達成感！



(右)山崎道数さん



「さけの子さっちゃん」は、大船渡水産振興センターのPRキャラクターです



『復興板』に関するお問い合わせ先  
沿岸広域振興局水産部  
大船渡水産振興センター〔担当 宮田〕  
岩手県大船渡市猪川町字前田6-1合同庁舎4階  
TEL:0192-27-9915 FAX:0192-21-1229  
E-mail:BG0004@pref.iwate.jp